

CHAPTER

# 3

## 神奈川・横浜から 大会を盛り上げよう

ラグビーワールドカップ2019™の大きな盛り上げに向けて、そして一人でも多くの方にラグビー競技やその精神を知っていただくために、オール神奈川・横浜でスクラムを組み、機運醸成に取り組んだ。



# 機運醸成の取組の概要

## はじめに

ラグビーワールドカップ2019は、日本のみならず世界を熱狂させ、歴史に残る成功を取めた。しかし大会開催に至るまでは、日本におけるラグビーの認知度はあまり高くない状況が続いた。

神奈川県・横浜市としては、大会の開催地からラグビーを盛り上げていこうと、立候補以来、競技団体や民間企業などとも連携し、オール神奈川・横浜で機運醸成に取り組んできた。

## 機運醸成の考え方 や重要施策

横浜市域における機運醸成は横浜市が、市外県域は神奈川県が実施主体となり、連携して事業を行った。

機運醸成の目的は、大会について知ってもらうことにより、ラグビーを観てみたい、ラグビーをやりたいという関心を高め、スポーツ振興につなげていくことであり、子どもたちをはじめラグビーに関心があまり高くない“ライト層”をターゲットに取組を展開した。

また、ラグビーの迫力や楽しさだけでなく、ラグビー憲章に掲げられたコアバリュー（品位、尊重、規律、情熱、結束）についての理解を広げるため、機運醸成イベント・広報・国際交流など様々な場面で意識的に取り組んだ。

## 〈 2015年～ 2016年度 〉

2015年度は、ラグビーワールドカップ2015™イングランド大会の開催にあわせ、日本代表の試合のパブリックビューイング等を行った。

2016年度からは、小学校でラグビー元日本代表選手



小学校訪問事業

等が特別授業を行う「小学校訪問事業」を開始したほか、横浜国際総合競技場で初のジャパンラグビートップリーグの試合にあわせ、イベント等を実施しPRを行った。こうしたPR手法はその後継続して実施した。

## 〈 2017年度 〉

大会2年前となる2017年度は、ラグビーワールドカップ2019開催都市特別サポーターを、林敏之氏、吉田義人氏、鈴木彩香氏に委嘱した。

また、横浜国際総合競技場で初めて開催されたラグビー国際試合「リポビタンDチャレンジカップ2017 日本代表対オーストラリア代表」にあわせ、プロモーションのためのスタンプラリー展開やバナーフラッグの掲出などのシティドレッシング、試合当日のおもてなしイベント、優勝トロフィー「ウェブ・エリス・カップ」の展示などを行った。

そのほか、横浜マラソン2017などの集客の多いイベントにブースを出展し大会のPRを行った。

2018年1月からは大会のチケット販売が始まり、3月には開催都市住民向けの先行販売も行われたため、チケット販売に関する情報を広く周知する活動を行った。



優勝トロフィー「ウェブ・エリス・カップ」と記念撮影



イベントでのラグビー PRブース出展

### 〈 2018年～ 2019年度 〉

2018年4月から県内のラグビーに関する情報を発信する特設ホームページ「横浜ラグビー情報」を開設。あわせてSNS (Twitter、Facebook、Instagram) も開設し、タイムリーに情報発信を行った。また、SNSのフォロワーを増やすための取組も実施。



特設ホームページ「横浜ラグビー情報」

イベントは、メディアへの露出も狙い、開幕までの100日ごとのカウントダウンの日にあわせて実施した。特に2018年9月から11月までの大会1年前の期間を「重点プロモーション期間」と位置づけ、開幕1年前イベント、パブリックビューイングなどのイベントを行ったほか、「キャノンブレディスローカップ2018」の前後に、大会本番の期間を想定したシティドレッシングや広報など、様々な手法を用いてプロモーションを大規模に展開した。また、決勝の開催都市として、決勝へのカウントダウンも意識した取組も実施した。



開幕500日前イベントで行われた出場チームのジャージなどの展示

イベントでは大会のPRに加え、キックやスローイングなど、ボールに触れる体験型のコンテンツを充実させ、ラグビーの魅力を体感していただける工夫を行った。あわせて、スポンサー企業をはじめとする地元企業等と連携し、ラグビーに関心のない方にも楽しんでもらえるよう、ショッピングモールでのPR実施、工事壁を活用した大型写真の掲出、大会ライセンス商品の販売など、より広

くより効果的にラグビーの魅力を伝えていく取組を広げていった。さらに、地元で活動するラグビーチーム（女子ラグビーチームを含む）と連携し、イベントで選手と交流できる企画等を数多く行い、地元のラグビーに関心を持ってもらう活動を展開した。

大会が近づくと、海外からの観戦客などをおもてなしするとともに、出場チームへの理解を深めるため、イベントで出場国・地域の国歌やアンセムを歌う取組（スクラムユニゾン）を実施。地元小学校での取組にも波及して、メディアでも取り上げられた。さらに、大会期間中には会場周辺で歌詞カードを配布し、両チームのアンセムを歌っておもてなしする文化を広げた。

また、世界7カ国・地域（日本を含む）の子どもたちが参加する『こどもラグビーワールドフェスティバル2019 supported by三菱地所グループ』が横浜国際総合競技場で開催されるなど、大会に向けた国際交流も加速していった。

©JRFU



キャノンブレディスローカップ2018  
(2018年10月27日)



鎌倉 長谷寺でのパブリックビューイング  
(2019年8月3日)



こどもラグビーワールドフェスティバル2019  
supported by 三菱地所グループ  
(2019年4月17日～ 22日)

# 機運醸成イベント

大会を神奈川・横浜から盛り上げていくため、大会の節目に行うカウントダウンイベントや、カウントダウンボードの設置、横浜国際総合競技場で開催される試合にあわせたPR、日本代表戦等のパブリックビューイングなど、県内・市内企業などと連携しながら、機運醸成に取り組んだ

## 2015年

▶3月2日

### 開催都市発表会 パブリックビューイング

ラグビーワールドカップリミテッド理事会での開催都市の承認後、全世界に対して開催都市が発表された。これに合わせてパブリックビューイングを実施し、神奈川県知事や横浜市長ら関係者が出席した。

会場：ヨコハマNEWSハーバー  
来場者数：約200人

▶10月3日

### ラグビーワールドカップ 2015 「サモア代表対日本代表」 パブリックビューイング

ラグビーワールドカップ2015の開催にあわせ、観戦機会を提供し、機運醸成につなげるため、パブリックビューイングを実施した。

会場：ヨコハマNEWSハーバー  
来場者数：約200人



## 2016年

▶9月10日

### ジャパンラグビー トップリーグ 「東芝ブレイブルーパス対 キャノンイーグルス」

横浜国際総合競技場で初のラグビー公式戦が開催された。試合開催とあわせて「2019キックオフイベントin横浜」を開催し、ピッチ見学ツアーやラグビー元日本代表選手などのトークショーなどを実施。観客動員数は、トップリーグの単独試合では同シーズン最多を記録した。

会場：横浜国際総合競技場  
入場者数：11,223人



## 2017年

▶2月5日

### 決勝戦 1000日前イベント

決勝戦1000日前イベントを開催。吉田義人氏、鈴木彩香氏、リーチマイケル氏によるトークショーやラグビー体験を実施した。

会場：マークイズみなとみらい  
来場者数：約1,000人



▶4月3日

ラグビーワールドカップ特別仕様  
ナンバープレート交付開始  
セレモニー

ラグビーワールドカップ特別仕様ナンバープレートの交付が始まること  
にあわせ、交付開始セレモニーを開催した。

会 場：横浜港大さん橋 駐車場

主 催：関東運輸局

共 催：神奈川県・横浜市

▶5月10日

ラグビーワールドカップ2019™  
プール組分け抽選会  
パブリックビューイング

京都迎賓館にて行われた『ラグビーワールドカップ2019™プール組分け  
抽選会』のパブリックビューイングを開催した。

会 場：新都市プラザ

来場者数：約1,200人

▶5月20日

スーパーラグビー  
「サンウルブズ対シャークス」  
パブリックビューイング

会 場：ヨコハマNEWSハーバー

来場者数：約200人

▶5月28日・29日

リッチー・マコウ記念イベント  
in 横浜

ニュージーランド代表の主将として  
大会連覇に貢献したリッチー・マコウ  
氏を横浜に迎え、ラグビークリニック  
やトークセッションなど各種イベント  
を開催した。

会 場：横浜カントリー・アンド・  
アスレティック・クラブ

(ラグビークリニック (5月28日))

横浜国際総合競技場

(トークセッション (5月29日))



会 場：クイーンズスクエア横浜

来場者数：約500人

▶6月10日

リポビタンDチャレンジカップ2017  
「日本代表対ルーマニア代表」  
パブリックビューイング

マークイズ みなとみらい1階 グランドギャラリー、グランモール公園に  
て、開催都市特別サポーター（林敏之氏、吉田義人氏、鈴木彩香氏）の委  
嘱式とトークイベントなどを行った。

トークイベントには大会ドリームサポーターの中嶋悟氏、松木安太郎氏、  
ヨーコ ゼッターランド氏、日本代表ヘッドコーチのジェイミー・ジョセフ氏、前  
回2015大会で活躍したラグビー選手の立川理道氏が出席。開催都市特別サ  
ポーターと共にラグビーワールドカップやラグビー競技の魅力について語った。

▶9月18日 (祝・月)

**大会2年前  
イベント  
in YOKOHAMA**



▶10月20日

## 開幕700日前 カウントダウンボード 除幕式

▶10月28日

ジャパンラグビーチャレンジマッチ  
2017  
「日本代表対世界選抜(world XV)」  
パブリックビューイング

▶11月2日

「ラグビーワールドカップ2019™  
日本大会 試合日程発表会」  
パブリックビューイング

▶11月4日

## リポビタンD チャレンジ カップ2017 「日本代表対 オーストラリア 代表」

開幕の700日前を記念し、新横浜駅ペDESTロリアンデッキにカウントダウンボードを設置。設置にあわせ、除幕式を実施した。



会場：赤レンガパーク

来場者数：約50人

会場：ヨコハマNEWSハーバー

来場者数：約150人

横浜国際総合競技場で初のラグビーの国際試合が開催され、この大会に向けてシティドレッシングやマリインタワーのライトアップ、優勝トロフィー「ウェブ・エリス・カップ」の展示、各種広報を展開した。

観客動員数は、国内代表戦では過去最多（当時）を記録した。

会場：横浜国際総合競技場

入場者数：43,621人



©JRFU

この試合とあわせて「横浜ラグビーカーニバル」を開催し、トークショーやラグビーワールドカップ優勝トロフィー「ウェブ・エリス・カップ」の展示などを実施した。イベントで販売された「崎陽軒」のメガシウマイ弁当や「ありあけ」のラグビーハーバーなどは大人気で長蛇の列ができた。



▶11月3日、4日

日豪少年少女ラグビー交流フェスティバル

ラグビー日本代表戦にあわせて、日本とオーストラリアの子どもたちの親善試合をはじめラグビーを通じた交流を行う「日豪少年少女ラグビー交流フェスティバル」を開催し、横浜市内の多くの企業にも協力いただいた。

また、試合を盛り上げるために新横浜駅や競技場周辺にシティドレッシングを施した。



## 2018年

▶1月28日

開幕600日前  
カウントダウンボード 除幕式

開幕600日前イベントとして野毛山動物園で、開催都市特別サポーターの鈴木彩香氏が出席し、関係者とともにカウントダウンボードの除幕式を実施した。



▶3月25日

大会チケット開催都市住民向け  
先行抽選販売 開始記念  
プロモーションイベント

3月19日から開催都市住民向けにチケット先行抽選販売が開始されたことにあわせ、ラグビー選手山田章仁氏によるキッズラグビー体験教室、大会ドリームサポーターの松木安太郎氏らによるトークイベントを実施したほか、市庁舎・県庁舎の装飾などを実施した。



▶5月6日

開幕500日前イベント  
in YOKOHAMA

ゴールデンウィーク最終日に、みなとみらいのランドマークプラザ1階ガーデンスクエアにて、「開幕500日前イベントinYOKOHAMA」を開催。トークショーやライフフォト、ラグビーワールドカップ2019で横浜国際総合競技場で試合をする国・地域に関連したステージ（アイルランド音楽、ハカ）やユニフォーム展示などを行った。



▶5月23日

## 開幕500日前イベント& かながわラグビーフェスタ in川崎

川崎でも500日前イベントが開催され、ラグビー元日本代表の廣瀬俊朗氏と大野均氏、DJ KOO from TRF、東芝ブレイブルーパスの選手が出演して、ステージイベントやトークショーが行われた。



▶6月9日

## リポビタンDチャレンジカップ2018 「日本代表対イタリア代表」 パブリックビューイング

これまで、横浜都心臨海部を中心にパブリックビューイングを実施してきたが、対象を市域全体や県域全体に拡大して実施した。

6月9日は八景島シーパラダイスでパブリックビューイングを実施し、これまでラグビーを観戦したことのない人にも、多く楽しんでいただいた。

会 場：横浜・八景島シーパラダイス  
来場者数：約1,000人



▶6月16日

## リポビタンDチャレンジカップ2018 「日本代表対イタリア代表」 パブリックビューイング

会 場：三井ショッピングパークららぽーと海老名  
来場者数：約300人

▶6月28日

## リポビタンDチャレンジカップ2018 「日本代表対ジョージア代表」 パブリックビューイング

会 場：イオンシネマ港北ニュータウン  
来場者数：約1,230人

▶7月7日

## スーパーラグビー 「サンウルブズ対ワラタース」 パブリックビューイング

会 場：ヨコハマNEWSハーバー  
来場者数：約200人



▶8月16日

## 横浜駅、中区役所 カウントダウンボード除幕式



9月～11月

## 開幕1年前 キャンペーン

▶9月20日

ランドマークプラザ  
カウントダウンボード除幕式

▶9月20日～11月25日

シティドレッシング

▶9月22日

トップリーグの試合にあわせたPR

▶10月19日～11月2日

横浜マリントワー特別ライティング

▶10月26日

ジャパンラグビーチャレンジマッチ  
2018  
「日本代表対世界選抜(world XV)」  
パブリックビューイング

開幕1年前を迎え、9月20日から決勝1年前の11月2日までの期間において、「キャノン ブレディスローカップ2018」にあわせた大会PRを中心に、『ラグビーワールドカップ2019日本大会1年前キャンペーン』を展開した。



横浜駅・みなとみらい地区・新横浜駅・関内駅周辺で、街灯バナー フラッグを掲出するほか、桜木町のクロスゲート、横浜駅の横浜高島屋に、大型の懸垂幕を掲出した。



(左) 新横浜駅構内のフラッグ (右) 競技場周辺のフラッグ

試合会場のニッパツ三ツ沢球技場をはじめ横浜市内7カ所の人が多く集まる場所において、オリジナルグッズ2019個を配布した。

横浜マリントワーの特別ライトアップとして、大会公式マスコットのレンジー（赤と白）、大会の5つのコアバリューを青（規律）、緑（品位）、紫（尊重）、赤（情熱）、黄色（結束）の5色で表現した。



開幕1年前PRのため配布したオリジナルビニールバッグ

会 場：ラゾーナ川崎

来場者数：約800人

▶10月27日  
**キャノン  
ブレディスローカップ  
2018**  
「ニュージーランド対オーストラリア」

ニュージーランド代表とオーストラリア代表の間で定期的に行われているテストマッチ「ブレディスローカップ」をラグビーワールドカップ決勝の地である横浜で初めて開催した。当時、史上最多（※）となる観客が観戦に訪れ、ラグビーワールドカップ2019開催への機運も高まった。

会 場：横浜国際総合競技場

入場者数：46,143人

※現在の集計方法を取り始めた2004年以降、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会主催試合として最多入場記録



©JRFU

【当日の関連イベント】

横浜ラグビーフェスタ

試合にあわせ、新横浜駅周辺及び競技場周辺で、ステージやラグビー体験などのイベントを実施した。



オージービーフで元気！  
日新豪少年少女ラグビー交流  
フェスティバル

ニュージーランド、オーストラリア両国から12歳以下の子どもたちを招き、県内及び市内のラグビースクールの子どもたちとの交流試合などを実施した。



▶11月1日～  
特製年賀はがき  
(広告付き年賀はがき)

神奈川・横浜の特製年賀はがきを作成。

販売枚数：34万枚



▶11月2日  
JR関内駅南口前（横浜市庁舎前）  
カウントダウンボード除幕式

▶11月2日～11月4日  
みなとみらい  
RUGBY TOWN

決戦1年前にあわせ、大会組織委員会が行う、過去のラグビーワールドカップのメダルやバッジ、優勝トロフィー「ウェブ・エリス・カップ」を展示する巡回型ミュージアム「ポップアップミュージアム」と連動させた街めぐりのイベント「みなとみらいRugby Town」を、ラグビーワールドカップ2019™ オフィシャルスポンサーの三菱地所（株）とともに開催した。イベントでは、高さ15mのラグビーポール設置やタックルマシンの体験などを実施し、約10,000人が来場した。



▶11月3日  
みなとみらい  
RUGBY STADIUM  
2018  
「日本代表 対  
ニュージーランド代表」  
パブリックビューイング；  
ファンゾーンテストイベント

ファンゾーンのテストイベントとして、ファンゾーンの会場である「臨港パーク」において、「日本代表対ニュージーランド代表」のパブリックビューイングやステージイベント、ラグビーアクティビティ、神奈川・横浜の地元グルメをテーマにしたケータリングなど、1年後を想定したコンテンツを実施した。

会場：臨港パーク（横浜市西区みなとみらい1）

来場者数：約5,000人



▶11月24日  
横浜国際総合競技場ライトアップ

イングランドで開催された「リポビタンDツアー 2018日本代表対ロシア代表」にあわせ、日本代表を応援するため、試合当日、横浜国際総合競技場において、赤と白の照明パターンのライトアップを実施した。

▶11月24日～2019年3月1日  
巡回PR（開幕300日前）

横浜市内イトーヨーカドー8店舗の協力により、開幕300日前にあたる、11月24日から、各店舗での巡回PRを実施した。

## 2019年

▶2月16日

スーパーラグビー  
「サンウルブズ対シャークス」  
パブリックビューイング

会場：ヨコハマNEWSハーバー

来場者数：約150人

▶3月

### 開幕200日前イベント in 海老名、横浜、相模原

開幕200日前を記念し、海老名、横浜、相模原でイベントを開催した。

3月3日 海老名

三井ショッピングパークら  
ぽーと海老名で開催。

3月4日 横浜

「女性のためのラグビー講座」  
を開催。

3月10日 相模原

小田急相模大野駅南北自由通  
路アトリウム広場で開催。



3月10日 相模原

▶6月

### 開幕100日前イベント in 東京、横浜、川崎

開幕100日前を記念して、大会組織委員会や横浜市、川崎市がそれぞれ  
イベントを開催した。

6月12日 東京・丸の内

(大会組織委員会)

多数の大会関係者が出席し、  
開催自治体協議会会長として林  
市長も出席した。



6月15日 横浜



6月18日 川崎

▶7月25日

### 決勝100日前イベント

決勝の地である新横浜公園で  
神奈川県知事、横浜市副市長、開  
催都市特別サポーターの林敏之  
氏、吉田義人氏、鈴木彩香氏、大  
会公式マスコット「レンジー」が  
出席してカウントダウンイベン  
トを開催し、お祝いのラグビー  
ボール型花火を打ち上げた。



▶8月3日  
 パシフィックネーションズカップ2019  
 「日本代表対トンガ代表」  
 パブリックビューイング

会 場：金沢公会堂 来場者数：約250人  
 会 場：鎌倉・長谷寺 来場者数：約360人

▶8月20日  
**開幕1か月前イベント**

新横浜駅にて記念イベントを開催した。元ラグビー日本代表の伊藤剛臣氏が「1日駅長」に就任したほか、JR東海、JR東日本、横浜市営地下鉄それぞれの新横浜駅長が出席して大会をPRした。

▶8月31日  
**トロフィーツアー**

開幕を1か月前に控え、最後の機運醸成の取組として、優勝トロフィー「ウェブ・エリス・カップ」を展示する「トロフィーツアー」が実施され、鎌倉大仏殿高德院、そして横浜開港資料館にて公開された。



▶9月6日(金)  
 リポビタンDチャレンジカップ2019  
 「日本代表対南アフリカ代表」  
 パブリックビューイング

会 場：戸塚区民文化ホール 来場者数：約300人  
 会 場：あつぎのえいがかんkiki 来場者数：約150人

### カウントダウンボード設置一覧

節目	設置場所	除幕式
開幕700日前	新横浜駅ペDESTリアンデッキ	2017年10月20日
開幕600日前	野毛山動物園	2018年1月28日
開幕500日前※	横浜国際国際総合競技場 屋外大型ビジョン	2018年5月8日
開幕400日前	中区役所本館	2018年8月16日
	横浜駅みなみ西口 相鉄口交番前	
開幕365日前	ランドマークプラザ2階 風の灯台前	2018年9月20日
決勝戦1年前	関内駅南口前(市庁舎前)	2018年11月2日
開幕200日前	海老名駅構内	2019年4月21日

※ このほか、横浜市18区の区庁舎・スポーツセンターに卓上カウントダウンボードを設置



# 広報

## 概要

広報には、二つの役割があった。まず一つは、ラグビーワールドカップ2019の神奈川・横浜開催及びラグビー競技の魅力を広く県民・市民に伝えることであり、開催に向けて様々な媒体を活用して機運醸成に取り組んだ。さらにラグビー憲章に掲げられたコアバリュー「品位」、「尊重」、「規律」、「情熱」、「結束」についても知っていただけるよう具体例を挙げて広報に取り組んだ。

もう一つが、国内外から試合観戦に訪れる方に向けて競技場へのアクセスなど大会に関する情報や、ファンゾーン及び県内周遊を促進する観光情報を発信することであり、ホームページやSNSを活用してタイムリーな情報発信を行った。

## 紙媒体

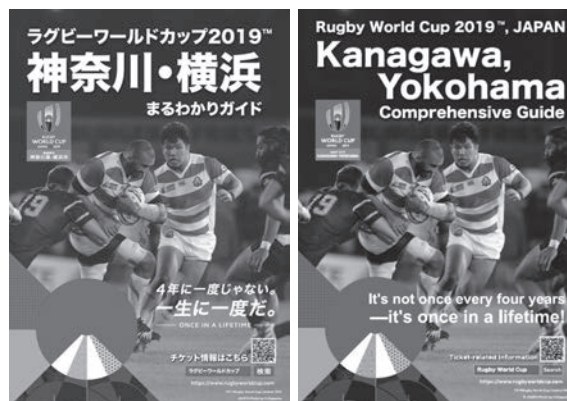
大会前から県・市広報紙に連載を掲載したほか、港北ニュータウンやみなとみらいで配布されているフリーペーパーや情報紙と連携して、大会に関する情報のほか、ファンゾーンや観光情報を掲載した。

また、「ラグビーワールドカップ2019™神奈川・横浜まるわかりガイド」を日本語版と英語版で発行した。

## 〈主な掲載先〉

広報よこはま（2018年4月から隔月でコラム掲載）、県のとより、SPORTSよこはま（3号連続で特集）、横浜ラグビー Walker（6～9月号で1ページ特集）、こどもタウンニュース、英国ラグビー雑誌「Rugby World」付録誌、Garden秋号（港北ニュータウンで発行されるフリーペーパー）、Mirea（みなとみらいで配付されるフリーペーパー）、ヨコハマよみうり（2018年から毎号でコラム掲載）、ぱど・ハマカラ・リビング新聞等の情報紙、JAPAN TIMES、TIME OUT TOKYO等

## ラグビーワールドカップ2019™ 神奈川・横浜まるわかりガイド(日本語版、英語版)



神奈川・横浜で行われる試合解説、ラグビーのルール説明、ファンゾーンのPR、観光情報、神奈川・横浜とラグビーの歴史等を掲載。約11万部発行

## 広報よこはま



## 県のとより



## こどもタウンニュース



横浜市内の小学校に配布している「こどもタウンニュース」と連携してラグビーワールドカップ2019の情報を掲載した号を作成し、配布した

SPORTS よこはま



スポーツに関心のある人に向けてラグビーの魅力や見どころ、ラグビースクールの紹介などを特集で掲載

横浜ラグビー Walker



横浜市と(株)KADOKAWAで締結している連携協定の取組の一環として発行した特集号で、ラグビーのルール、横浜観光、フォトスポットの情報など、ラグビーを通して横浜を紹介。3万部発行

英国ラグビー雑誌  
「Rugby World」付録誌



英国のラグビー雑誌9月号の付録に横浜観光情報を掲載し、ホームページでも同じ情報を展開した。国内で配布されるそのほかの観光案内媒体にも横浜PRを掲載



交通媒体

多くの人が利用する駅・電車などの交通機関に広告を掲出した。特に新横浜駅、みなとみらい駅、桜木町駅を中心に大型広告を掲出し、大会の盛り上げを図った。

〈横浜市営地下鉄、JR、横浜高速鉄道〉

アドトレイン



車両全ての広告スペースを使った「広告ジャック」

みなとみらい駅



横浜駅 グランボード広告



ホームドア広告・規定看板



関内駅

キャノンラグビーウォールギャラリー



## 〈市営バス〉

フルラッピングバス 2017年9月～2019年12月 横浜市内1台



パートラッピングバス 2019年9月～2019年11月 横浜市内6台



## 〈横浜シーサイドライン〉



横浜シーサイドラインの7駅に横浜で



プール戦を行う7チームの写真を掲載  
新杉田駅の大型  
バナー

## 〈湘南モノレール〉



駅名表示板とモノレールのヘッドマークに大会マ  
スコットのレンジーを使用



大船駅構内の大型  
広告

## ■ ホームページ、SNSの活用

ホームページやSNSを活用することで国内外向け  
てタイムリーな情報発信を行った。

また、魅力的なイベントや光景がSNSで拡散されるこ  
とで神奈川・横浜の魅力発信につながった。

### 〈ホームページ〉

特設ホームページ「横浜ラグビー情報」を2018年  
4月に立ち上げ、大会前にはラグビーのルールに関する  
コラムや県内のラグビー情報、横浜でプール戦を行う  
チーム紹介などの情報を掲載した。

大会期間中は、ラグビーワールドカップ2019やファン

ゾーンの情報を掲載した。また、海外から訪れる観戦客  
のために英語ページを制作したほか、県や市の観光情  
報へのリンクを張ることで、県内・市内の観光地への周  
遊の促進に取り組んだ。

当該ホームページの当初の目標は、ページ閲覧数を表  
すPV（ページビュー）について、25万PVを達成するこ  
とであったが、大会期間中は、1日平均3万PV、累計で  
265万PVに達し、多くの方に閲覧していただいた。特に  
台風やそれに伴う大会イベントの開催状況については、  
タイムリーな情報発信で、円滑な大会運営に寄与した。

大会開催情報やファンゾーン情報のほかに、ラグビー  
のルールや出場するチーム紹介などラグビー全般につ  
いての記事へのアクセスが多く、ラグビー競技の普及に  
貢献した。

### 「横浜ラグビー情報」



### ファンゾーンページ





## 〈 SNS 〉

大会前から県内のラグビーに関する様々な情報を発信。大会期間中は、街の盛り上がりの様子のほか、競技場へのアクセスや早期入場のお願いなどの情報を日本語と英語の2か国語で発信した。大会前は1,400人だったフォロワーが期間中には2,400人になり、多くの人に情報を届けることができた。

### ツイッター (2018年4月開設)



### フェイスブック (2018年6月開設)



### インスタグラム (2018年7月開設)



## ■ PR動画

2015年イングランド大会の映像を中心としたPR動画を制作し、県内市内の商業施設サイネージなどで放映した。You Tubeでも公開し、多くの人に視聴いただいた。



大会PR動画



毎週日曜18時から放映の「カナフルTV」(tvk)に黒岩知事が出演し、ラグビーの魅力を語った。(2019年10月)

## ■ PRグッズ・記念品

大会をPRするため、オリジナルグッズを作成し、各種イベント来場者や関係者などに配布した。



折り紙(左)、卓上カレンダー(右上)、キーリング(右下)



うちわ



クリアファイル3種類



ネクタイ、スカーフ、ラグビー発祥記念絵皿、バッジ

# ブース出展

## 目的

ラグビーワールドカップ2019に向けた機運醸成を図るとともに、ラグビーへの関心が少ない県民・市民の方にも本大会やラグビー競技への興味を持ってもらうために、県内・市内で開催される各種イベントにブース出展を行った。

## 内容

ブース出展では、チケット購入ガイドや観戦ガイド等のパンフレット、ラグビーイベントのチラシを配布するとともに、大会や出場国・地域に関するパネル展示を行った。出展内容のなかでも、トライフォトやちびっこキッカーなどの体験コーナーは、家族連れに特に人気が高く、ラグビーを知って楽しんでもらう良い機会となった。

「秋じゃないけど収穫祭」(2018年5月26日、27日)



「ベトナムフェスタ」(2018年9月8日)



「救急フェア」(2018年9月9日)



「元町アイランド応援デー」  
(2018年9月14日)



「スポーツレクリエーションフェスティバル」  
(2018年10月8日)



# 市内18区及び県内市町村との連携

## 概要

神奈川県内市町村や横浜市内18区では、地域に根差した大会への盛り上げやラグビー普及への取組を実施した。



大会PR展示一式

## 内容

横浜市内各区に対して市ラグビーワールドカップ2019推進課から予算配付を行い、各区でもラグビー教室などのイベント実施や啓発物品制作などの機運醸成に取り組んだ。各区がイベントを実施する際は、パネルや出場国・地域のジャージなど大会PR展示品の貸出を行った。

さらに、開幕500日前を契機に、各区役所及びスポーツセンターへ卓上カウントダウンボードを設置したほか、開幕100日前からは各区での巡回展示も実施した。このほか、希望する区では、大会期間中にパブリックビューイングを開催した。

また、県内市町村でも、庁舎などでの展示実施に加え、ラグビー体験やステージイベントを行うラグビーフェスタなど、節目ごとのカウントダウンイベント、パブリックビューイングを実施し、機運醸成に取り組んだ。



パブリックビューイングの様子(金沢区)



親子ラグビー体験教室(港南区)



ラグビー体験コーナー(瀬谷区)



ラゾーナ川崎での展示の様子(川崎市)



吉田義人氏 講演会(金沢区)



開幕200日前イベント in 相模原(相模原市)



ラグビーパーク in 横須賀(横須賀市)



ラグビーフェスタ in FUJISAWA(藤沢市)

# ラグビー普及

## 内 容

大会に向けた盛り上げだけではなく、競技の普及、ひいてはスポーツ振興につなげるため、ラグビー元日本代表選手等の小学校訪問事業や親子ラグビー教室などの取組を実施した。

### 〈小学校訪問事業〉

神奈川県・横浜市では、ラグビーワールドカップ2019開催を契機に、さらなるラグビー競技の振興と大会前、大会後の機運醸成に向けた取組として、横浜市立小学校にラグビー元日本代表選手などを招き、ラグビーを通じて直接子どもたちと触れ合う事業を神奈川県ラグビーフットボール協会協力のもと、2016年度から実施してきた。現在まで毎年度、市内各区1校計18校を対象に実施している。

訪問事業では、ラグビー元日本代表選手の講演と、元選手と県協会スタッフによるタグラグビーの実技指導を行った。これまでに協力していただいた講師には今泉清氏、川合レオ氏、北川俊澄氏、齊藤祐也市、相馬朋和氏、廣瀬俊朗氏、三宅敬氏、吉田義人氏らがいる。



タグラグビー授業の様子

■タグラグビーとは、タックルの代わりに「タグ」を取ることで防御する、身体的接触が少ない誰でも安全に楽しむことができるボールゲーム。

■ミニラグビーとは、小学生を対象につくられた競技で、グラウンドの大きさ、プレーヤーの人数、ボールのサイズ等が年齢別に段階的に制定されているボールゲーム。

### 〈親子ラグビー教室〉

ラグビーワールドカップ2019に向けて大会の盛り上げを図るため、「ラグビーワールドカップ2019開催都市特別サポーター（神奈川・横浜）」に就任していただいたラグビー元日本代表選手 吉田義人氏とともに「親子ラグビー教室」を2017年から年5回実施してきた。

対象は小学生以下の子どもと保護者で1回50組が参加し、横浜国際総合競技場に隣接するしんよこフットボールパークでラグビーを楽しんだ。



指導をする吉田義人氏

### 〈タグラグビー指導者講習会〉

小学校の体育の授業でタグラグビーを実施する場合に必要なのは指導者である。そこでタグラグビー指導に興味のある横浜市内の小学校教諭を対象にした指導講習会を2019年7月～8月に実施した。



タグラグビー指導者講習会の様子

### 〈リポビタン ヒーローズカップ 決勝大会〉

小学生の全国規模のミニラグビー大会「第11回 リポビタン ヒーローズカップ決勝大会」が初めて横浜で開催された。

日時：2019年2月23日、24日

場所：横浜国際総合競技場

主催：NPO 法人ヒーローズ

試合形式：地区大会で約250チームから勝ち上がってきた小学校5、6年生（U-12）の16の強豪チーム（約500名）で優勝を争う。県内からは横浜ラグビースクール、相模原ラグビースクールが出場した。



全国から勝ち上がった小学生が大人顔負けの激闘を繰り広げた

### 〈三菱地所(株)ラグビーボール寄贈 AIG 損害保険(株)よりタグラグビーキット寄贈〉

2019年4月、三菱地所(株)から横浜市に本大会の公式レプリカボール1,100個が寄贈され、全ての横浜市立小学校342校に各校3個ずつ配布された。

また、AIG 損害保険(株)から神奈川県に対してタグラグビーキットが寄贈され、2018年4月にプレゼンターとしてラグビー元ニュージーランド代表キャプテン リッチー・マコウ氏が県庁を訪れた。



三菱地所株式会社からのラグビーボールの寄贈式



黒岩知事とリッチー・マコウ氏

### 〈青少年へのラグビーの取組 「TRY RUG BEE プロジェクト」〉

(株)NTTドコモ、スポーツビジネスのコンサルティング企業である4th and Goal LLCとの共同で実施したプロジェクトで、日本を代表するラグビー選手 山田章仁氏が2019年7月、市内の小学校を訪問し、タグラグビー用具の寄贈と特別授業を実施した。

### 〈東京ガス大森グラウンド 「ラグビー体験&観戦バスツアー」〉

東京ガス(株)神奈川支社の協力により、2015年度から、東京ガスラグビー部員による未体験者へのラグビー体験教室及び東京ガスラグビー部の所属するトップイーストリーグの試合の観戦を行った。



観戦バスツアーの様子



### 〈子ども招待事業〉

2019年9月21日、22日の試合（プール戦）観戦に神奈川県内のジュニアラグビー選手771人を招待した。このほか、10月12日に県内及び福島県のジュニアラグビー選手の試合観戦招待や交流会の実施を予定していたが、台風19号の影響で中止となった。



# 国際交流

## 内 容

日本の子どもたちと世界各国の子どもたちが言葉の壁を越えてラグビーの試合や文化交流をしたり、歌詞カードを見ながら出場国や地域のアンセムを歌ったりと、ラグビーワールドカップ2019開催をきっかけに、神奈川県内や横浜市では様々な国際交流の場が生まれた。

### 〈日豪少年少女ラグビー交流フェスティバル〉

2017年11月3日～4日、「リポビタンDチャレンジカップ2017 日本代表対オーストラリア代表」の開催にあわせ、ラグビーを通じて日本とオーストラリアの国際交流及びラグビーの普及と次世代の育成に貢献することを目的に「日豪少年少女ラグビー交流フェスティバル」を開催し、交流試合や文化交流などを実施した。  
会 場：横浜カントリー&アスレティッククラブ、日産フィールド小机



日本代表対オーストラリア代表戦にあわせて、子どもたちの交流試合が行われた

### 〈日新豪少年少女ラグビー交流フェスティバル〉

2018年10月26日～29日、「キャノン ブレディスローカップ2018 ニュージーランド代表 対 オーストラリア代表」の開催にあわせ、ラグビーを通じて日本とニュージーランド、オーストラリアの国際交流及びラグビーの普及と次世代の育成に貢献することを目的に「日新豪少年少女ラグビー交流フェスティバル」を開催し、交流試合やラグビークリニックのほか、文化交流などを実施した。  
会 場：横浜カントリー&アスレティッククラブ、横浜国際総合競技場



3か国の子どもの国際交流戦



横浜国際総合競技場の前でも記念写真

〈 こどもラグビーワールドフェスティバル2019  
supported by 三菱地所グループ 〉

2019年4月17日～22日に日本を含む世界7カ国・地域の子どもたちがラグビーの試合などを通じた国際交流を行う、「こどもラグビーワールドフェスティバル2019 supported by 三菱地所グループ」を開催した。

開催期間中、日本を含む7カ国・地域の12歳以下の子どもたちが、横浜市内各所でラグビーの練習や文化交流などを行ったほか、横浜国際総合競技場においてラグビーの交流試合も実施した。



参加した7カ国・地域の子どもたちで記念撮影

〈 ニュージーランド代表の  
ハンセンヘッドコーチ来日 〉

2019年9月12日、ニュージーランド代表・オールブラックスのヘッドコーチであるスティーブ・ハンセン氏が来日し、中華街の山下町公園にあるラグビー発祥の地の記念碑や中華街を訪れたのち、神奈川県知事を表敬訪問した。



黒岩知事を表敬訪問



ラグビーの交流試合の様子



文化交流の様子



横浜中華街にて

## 〈 学校給食 〉

ラグビーワールドカップ2019出場国の食文化を取り入れた給食の提供（2019年9、10月）と、献立の説明を加えた「ぱくぱくだよりラグビー号外」を作成配布した。2019年9月13日には、四季の森小学校にキャノンイーグルスから神奈川・横浜にゆかりのある山路泰生選手を含む4選手が来校し、児童と給食をとりながら、食の大切さを直接伝え、給食の後は児童と一緒にラグビー交流を行った。



市内小学校の児童全員に配布



山路泰生選手と子どもたち



9月はロシア（日本代表の初戦対戦国）のメニューを提供

## 〈 ソシエテ・ジェネラル ラグビー・スピリット・フェスティバル 〉

2019年10月23日～27日の日程でラグビーワールドカップ2019™ワールドワイドパートナーであるソシエテ・ジェネラル（仏メガバンク）が、「ソシエテ・ジェネラル ラグビー・スピリット・フェスティバル」を開催し、9カ国・地域の子どもたち約100名が横浜へ招待された。これは、ラグビー交流や準決勝観戦の機会を提供する取組で、これにあわせて、横浜市立仲尾台中学校の生徒との文化交流も行われた。

なお、海外から来日した子どもたちは、横浜市上郷・森の家に宿泊した。



招待された9カ国・地域の子どもたちと横浜市立仲尾台中学校の生徒が記念撮影



文化交流の様子